

早稲田大学 法学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	長めの長文問題が2問、基本動詞を用いた熟語問題、文法・語法問題に加えて短い和文英訳問題、さらに英語での論述問題という内容なので、必然的に時間との戦いとなる。レベル的には後半の英訳・論述が基本的なので、前半の長文問題での時間配分が重要である。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	段落別要約文選択 内容一致 発音問題	かなりの長文なので、段落ごとの内容をいかに短時間で正確に読み取るかが重要。発音問題もアクセントだけでなく母音の種類まで問われている。	やや難
II	全文読解内容一致 内容一致 下線部内容選択	Iに比べて読みやすい文章だが、下線部には難解な語句やことわざも含まれているので、前後関係から判断することが必要である。	標準
III	空所補充	基本動詞 take を用いた熟語問題。読解力のみならず、語彙力も十分つけておくこと。	標準
IV	正誤問題	語法・文法の知識を駆使して不適切なものを選ぶ問題。難問ではないが、正確な語法の知識が必要。	標準
V	和文英訳	対話文の一部を英訳するものだが、かなり基本的。当たり前のことを当たり前の常識で簡潔に表せばよい。	易
VI	英文論述	大学での外国語学習について自分の意見を英語で述べる問題だが、何も大げさな難しい表現をする必要はない。身近な話題なので理由をはっきりと述べることができるはずである。	標準

[総合コメント]

2つの長文がかなり長めであり、かつ設問が細部の内容にまで関わるものなので、速読速解の力が合否を左右する。法学部を志願する以上、政治・経済・歴史などに興味があるはずだが、そのような分野での常識・関心も求められる内容である。熟語や文法に加えて発音も出題されているが、入試本番ではそこに時間をかけるわけにはいかない。後半の英訳・論述問題も標準的なので、まずは長文読解に重点を置くべきである。もはや定着したといえる英訳・論述問題は昨今の英語教育における表現力重視の風潮から、今後も続くことが十分予想される。